

2024年度 京都保育福祉専門学院
自己評価及び学校関係者評価報告書

2024年3月
自己評価委員会

1. 学校の教育目標

キリスト教精神により保育奉仕者・社会福祉専門職者の養成に力を注ぐことを基盤として、社会状況の変化に対応した養成教育を行う。社会福祉に関する専門職員になるための必要な知識と技能を修得し、キリスト教精神により円満な人格と豊かな情操を養い、社会福祉事業に献身する事のできる人材を育成する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画（2022年度からの継続）

- ・保育、福祉の担い手を養成する上で根幹としてのキリスト教精神による教育の更なる推進。
- ・教育のあり方を改革し、更に幅広い学生が学べる学校になる。
- ・職業教育の充実を図り、実践的な職業教育の質の向上を目指す。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標 ※ 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価結果
理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
学校における職業教育の特色は何か	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3

- ・適切に理念や育成人材像は定められている。「福祉」の専門職を養成する上で、理想とする人材育成をするべきではあるが、職業教育の知識や技術を学ぶことも大切ではある。支援を必要としている人に対する対応は寄り添える心情や誠実な人間性であることを教えるものではなく心を育むものである。福祉を担う人材としての、心がまえを身に付けていくことの難しさを感じるが、本学の学びを通して理解できるようにしていくことが課題である。学院の将来構想については、教職員全体で共通認識をもてるよう審議を重ねていく。

(2) 学校運営 ※ 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価結果
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	3
教務、財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	3
業務や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

- ・業務効率化ばかりが先行してしまうと、学生への職業教育が丁寧に行えないことにもつながるので、学生に向き合える時間を大切にしながら、業務効率化をすすめていくことが必要である

(3) 教育活動 ※ 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価結果
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
教育理念、人材育成や業界のニーズを踏まえた教育機関としての就業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや療育方法の工夫や、開発などが実施されているか。	4
関連分野の企業の企業・関係施設等、業界団体等との連携によりカリキュラムや療育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野における実質的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	3
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

- ・人材育成目標については、外部の識者や関連施設の施設長等からの意見も交え、建学理念に即した面と社会情勢に合わせた望まれる人材を見極めて検討していく必要がある。また、研修を通して、連携施設職員と協働して学ぶことで実践教育内容に結び付けられるようにする。教職員の研修計画では、先端的な知識や技術、または時代に即したスキル等を取り入れることにする。

(4) 学修成果 ※ 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価結果
就職率の向上が図られているか	4
資格取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

- ・保育士資格を活かした職業が多様化している中で、学生自身が自分に合った職場に出会えるようにサポートはしているが、入職後にミスマッチであったことに気が付くこともあり、早期退職となるケースもある。そのようなことがないように、学業と並行して学生自身がキャリア形成を考えられ自分の思い描く将来をじっせんできるよう、サポートが必要である。関連施設からの情報を得ながら、職業人として求められているスキル等を学べるようにしていく必要がある。
- ・退学者は年々減少しているが、入学後に修学をしていく上での課題が見つかることがある。そのような学生の習熟度にあわせたプログラムを考えなければいけない。または合理的配慮についても教職員で情報共有をしていくことが必要となった。

(5) 学生支援 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価結果
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
社会人ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

- ・担任制でクラス運営がなされており、担当教員と学生の距離感が近いとアンケート結果がでた。学生の心理的な弱さや幼さを担当教員が支えることで、修学に対する態度に変化が見られた。2年間で、学生から職業人に成長していけるようなサポート体制の充実を図りたい。

(6) 教育環境 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価結果
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学院外の実習施設、インターネット、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災に対する体制は整備されているか	3

- ・ICT環境の整備やパソコン等整備を適切に行う。
- ・学院のBCPに則り、想定訓練をする必要がある。

(7) 学生の受入れ募集 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価結果
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

- ・社会人等が学べるように教育課程の編成を行ったことを広くアピールし、多様な学生を対象としている学院の姿勢をアピールしていく必要がある。
- ・適時、広報会議を開催し教職員全員で広報活動を行うことを意識する。
- ・社会人が入学後のイメージが具体的にもてるように、学業優先でありながら家庭との両立ができるようスケジュールの提案をしていく。

(8) 財務 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価結果
中長期的に学校の財務基盤は安定していえるといえるか	3
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3

財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	3

- ・ガバナンスの効いた社会福祉法人が経営しているので、予算・収支ともに妥当に計画され執行されている。消耗品はコスト意識を持ち、利用・調達をする。中長期的な財政基盤を強固にしていくことを念頭に事業運営をしていく。

(9) 法令等の遵守 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価結果
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	3

- ・自己評価委員会・学校評価委員会・教育課程編成委員会等の各委員会からの提言等が、学院運営に有効的に活用できていない部分もあるのが課題である。各委員会からの提言や助言内容を、教育課程編成に反映させるメリットを理解し、教員が教育課程に対する考えが同じ方向性をもち作成していく。法令遵守は基本となる法制度を教職員が理解し、日常業務に落とし込むようにする。

(10) 社会貢献・地域貢献 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価結果
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

- ・学生のボランティア活動への興味関心が低下している。学生はアルバイトをしなければ生活ができないという状況でもあり、ボランティア活動ができないということもある。
- ・施設を利用した地域活動を模索し計画する。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

ゆとりのある学びを目指した新カリキュラムが全面実施となった。大卒者入学・社会人入学者の増加にも繋がっている。今後も幅広い学生が学べるように教育のあり方を検討していく。

実践的な職業教育を連携施設職員との協働を充実させていくなどして、今後も実践的な職業教育の質を高めていかなければならない。